Ｎｏ．４７５【２０２１年１０月１日配信】
二代目公会堂の設計者・阿部美樹志（担当：村上）

本町４丁目にある青森市福祉増進センター（愛称・しあわせプラザ）の入口は４本の柱が並ぶ特徴的なデザインになっています。この部分が大正 14 年（1925）に建設された青森市公会堂を模したデザインであることは「あおもり歴史トリビア」第 58 号でご紹介しました。では、その公会堂を設計したのはいったい誰なのでしょうか？

青森市福祉増進センターの入口

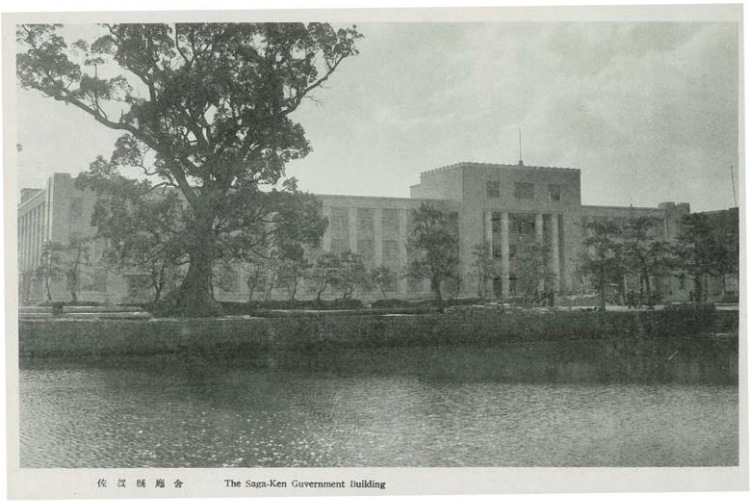
二代目公会堂（昭和戦前・歴史資料室蔵）

公会堂の建設は皇太子（のちの昭和天皇）の御成婚記念事業として計画されたもので、大正 12 年 12 月に青森市の市勢調査会が建設を決定しました。その決定を受け、翌月には市会において公会堂建設が可決され、新年度予算には建設費 10 万 7,000 円が計上されました（『東奥日報』大正 13 年 1 月 30 日付）。

市会で公会堂建設が議論されている間、市は公会堂の設計について非公式に交渉を行っていました。その相手は工学博士の阿部美樹志（みきし）（1883－1965）でした。市会で公会堂建設の予算が可決されると、大正 13 年 2 月 4 日に正式な依頼状を送付しています（『東奥日報』大正 13 年 2 月 5 日付）。

阿部は岩手県出身で、札幌農学校（現北海道大学）土木工学科を主席で卒業し、逓信省鉄道作業局に入局しました。明治 44 年（1911）には難関の農商務省海外実習練習生選抜試験に合格し、アメリカに渡ってコンクリート工学の世界的権威であるイリノイ州立大学のアーサー・タルボット教授のもとで学びました。大正 3 年に帰国すると、鉄道院の技師として東京－万世橋間高架橋の設計・監督業務に携わりました。さらに、大正 9 年には鉄道院を辞めて阿部美樹志事務所を開設し、鉄道高架橋や百貨店、劇場などの多くのコンクリート建築を手掛けました。

阿部は日本の鉄筋コンクリート工学の開祖とも呼ばれており、彼が設計した「名島川橋梁（大正 12 年竣工）」と「阪急鉄道神戸市内線高架橋（昭和 11 年竣工）」は「土木学会選奨土木遺産」に認定されています。つまり、青森市公会堂は日本の鉄筋コンクリート建築界を代表する人物が設計した建物だったのです。



阿部美樹志が設計した佐賀県庁舎
（佐賀県立図書館データベースより）

大正 13 年 5 月 1 日付『東奥日報』には阿部の設計による「正面図」が掲載されています。その案は鉄筋コンクリート 3 階建てで屋上庭園を設けるというものでした。しかし、建設費が予算を大幅に超える 17 万円と見込まれたため、市は阿部と話し合って設計変更を行ったということです。

※今回の内容は小野田滋「阿部美樹志とわが国における黎明期の鉄道高架橋」（『土木史研究』第 21 巻　2001 年）などを参考にしました。